

「あゝあ、今日はみんなとボドゲ大会のはずだったのに。」

急に新しいVR戦闘訓練だなんて。訓練なんていつでも出来んじゃないん。」

「この訓練の結果は君たちの任務遂行能力の評価に反映される。心して臨むように。」

「文句を言っている暇があるなら早く準備した方が良いでしょう。」

「はいよう。たきなは真面目だねえ。」



「さくでと、ちやちやつと終わらせちゃいますから。
…って、何？ ピカピカ光る変な模様が
映ってるだけなんですけど？」

「予定ではまず市街地のフィールドが
表示されるはずでは？」

「ふむ、エラーが発生したのかもしれない。
確認するから、そのまま少し
様子を見てもらえるか。」



(なんだろ…この映像を見てると…
頭がぼーっと…)

(変だな…睡眠は規定通りに取ってるし…
体調は万全のはず…)

キ
イ
イ
イ
イ

キ
イ
イ
イ
イ

(ククク…ついにこの2人を

手に入れるチャンスがやってきた…

初めて見かけた時から、この時のために

入念に準備してきた甲斐があった！)



（俺が用意した催眠ソフトでお前らを
スケベな雌に変えてやる…！）

「ちよつとこれ…」

何か変…じゃない？」

キイイイイ

「本当に訓練…なんですか…？」

「ふむ…映像出力部分のエラーのようだ。
あと少しで復旧するだろうから、
それまで辛抱してくれないか。」

キイイイイ

「あと少しなら…しようがないですね…」
「わかり…ました…」



(よし…判断力の低下を確認。準備完了だ。
ここから刷り込みを使って、
こいつらの認識を上書きする！)

「な、何これ…裸の女の人…!?
それに男の人の…っ!?
なんでこんな映像が…!」

「止めて…ください…!!
こんなもの…訓練…では…!」

「ん？ 今流れているのは
男を悦ばせる性技の訓練映像だ。
君たちの任務に必要なものだろう?」

「これが…任務って…!」

「な…何を…」



「君たちの任務はリコリスとして社会秩序を守るため、『敵をセックスで堕とし、無力化する娼婦』のはずだ。忘れたのか？」

君たちはそのセックス大好きな淫乱さを見込まれ、この任務を任されたのだ。」

キニイイイ

「任務…？ 私がセックス大好き…？
あ、あれ…？ 頭に霧がかかったみたいにな…
うまく考えられない…！」

「私たちの任務は治安維持…」

敵を無力化するために…銃で制圧…じゃなく
セックスで…堕とす…？ そう…だっけ…？」

キニイイイ

ピクンッ

「おやおや、自分たちの任務を忘れるとは困ったものだ。
今から再教育プログラムを実施するので、
しっかりと頭に焼き付けておくように。」

「!? あああっ…!?
頭の中につ……変な言葉が……
流れ込んできて…!?」

「頭の奥に響いて…離れな…S……」

ビク

ビクッ

ビクン

ビクッ

「セックス……オナニー……ディープキス……好き……」
「セックス……オナニー……ディープキス……好き……」





「おちんぼ...好き...生ハメ...好き...」
「種付け...好き...フェラチオ...好き...」

ピク

ピク

ピク

ピク

しゅん

じゅん

「ふふふ…
さて、2人の教育の結果は
どうなったかな？」



ふーっ

セックス

ふーっ

ディープキス

ふーっ

生ハメ

フェラ

ふーっ

セックス

「さあ、訓練は終わりだ！」

パチン

パチン

パチン

「あ、あれ…？ 私…」

「訓練中だというのに…
ぽーっとしてた…？」



「訓練中に集中を欠くとは、
弛んでいるんじゃないか？
今一度確認する。
君たちの任務はなんだ？」

「任務……」

「私たちの…任務……」



「私たちの任務は…」

「セックスで男性を堕とすことです。」
「セックスで男の人を堕とすことです。」

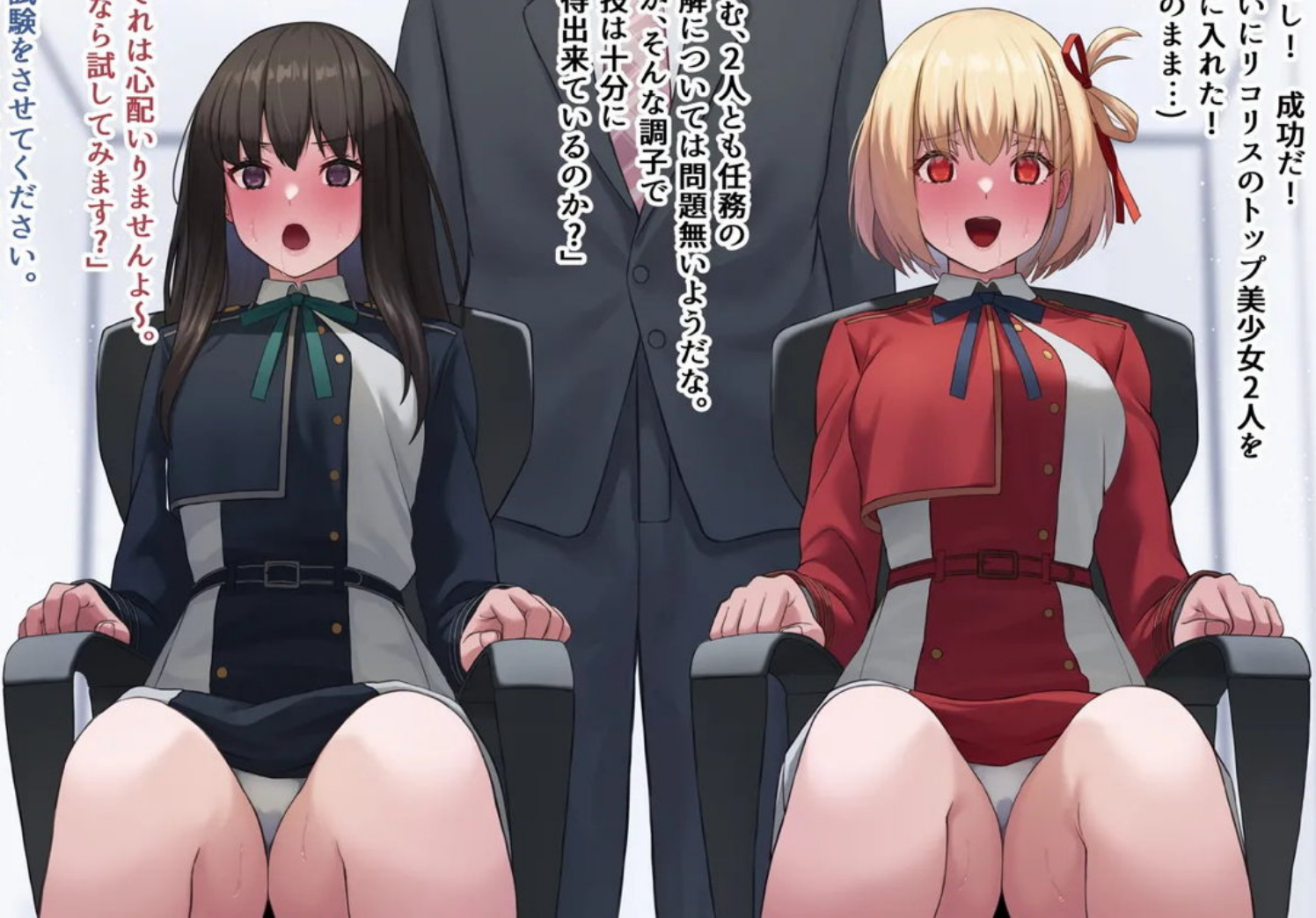


(よし！ 成功だ！
ついにリコリスのトップ美少女2人を
手に入れた！
このまま…)

「ふむ、2人とも任務の
理解については問題無いようだな。
だが、そんな調子で
性技は十分に
習得出来ているのか？」

「それは心配いりませんよ。
何なら試してみます？」

「試験をさせてください。
絶対に良い成績を残してみせます！」





『速やかに発情し、おちんぼへ
性的刺激を開始します♡』

『うわっ♡おっき♡♡』

ドキ

はっ♡



『なるほど...
それでは、男が目の前で
このようにチンポを
出した時、
どうするんだったかな？』

はっ♡

ドキ

はっ♡

「く…我先にとがつつくように…!!
この淫乱雌共が!」

「だって、こんな立派な格好良いおちんぼ
見たら、我慢できないですよお♥
女の子の前にこんなもの
出しちゃダメでしょ♥」

くちゅ

くちゅ

ぴちゅ

くちゅ

「速やかに射精を促すためです♥
断じて自分が快感を得たいということでは…♥」

「それにしてもさすが優秀なリコリス！
何という舌使いだ……！
このままではすぐに……！！
…ウツ!!」

フ

ド

「ひゃっ♡」

「んんっ♡」



「おお〜♡

沢山出して格好良いですよ〜♡」

「どうですか？」

「これでも私達の性技は
評価水準に達していませんか？」

ふーっ♡

ふーっ♡

ふーっ♡

ふーっ♡

「いや…2人とも流石だ。
これならばどんな男でもすぐ
無力化出来るだろう。」



「ところで♡ここまでやったのに、
これで終わりじゃないですよね？」

「まだ私たちの技能の一部を示したに過ぎません。
このまま引き続き…」

ドキ



ドキ

「最後までする？」

「最後までしますか？」





































